宗像

毎月十五日発行
発行所
宗像大社
宗像像会
〒811-35 福岡県宗像郡玄海町
電話 0940-62-1311代
定価 一年送料共 1000円

神具、装束
結婚式場用品
九州店
福岡市博多区東公園二一三（〒八一二）
電話福岡（〇九二）六五一一九四五六番
京都市下京区油小路一条北入（〒六〇〇）
電話京都（〇七五）三四三一三四一番
本社
株式会社 井筒

筑前路の春を告げる
宗像大社春季大祭

宗像大社春季大祭（保存会）は、桜前線が近づいている去る三月三十一日より四月二日までの三日間に亘り厳粛且つ盛大裡に斎行された。

三月二十九日には、地元田島校区の氏子総代及び同協力会員二十四名により、境内各所に大幕や幕帳等の奉仕作業が行われた。又、三十・三十一日は、御社殿清掃・装飾・舗設等の祭典準備が整えられた。

三十一日午後五時から、大祭に先だちまず高宮地主祭、続いて高宮祭が行われ、併せて、総社地主祭も斎行された。同六時からは、明日からの大祭々典の無事を祈る宵宮祭が斎行された。

明けて四月一日午前十時から、第二宮祭、第三宮祭が各々斎行され、同十一時から大祭第一日祭が、氏子崇敬者を始め一般参列者達多数参列のもと盛大な賑わいの中厳粛に行われた。

祭典では、葦津宮司の、国家鎮護・五穀豊稔・交通の安全と氏子崇敬者の平穏無事・弥栄を祈念する祝詞が奏上され、宗像大社氏子会を代表して、斎服に威儀を正した永島正助氏が奉幣詞を奏上された。神楽では、地元青年団員有志の奉仕による当大社伝統の主基地方風俗舞、また地元玄海中学校女生徒の奉仕による浦安舞が奉納された。

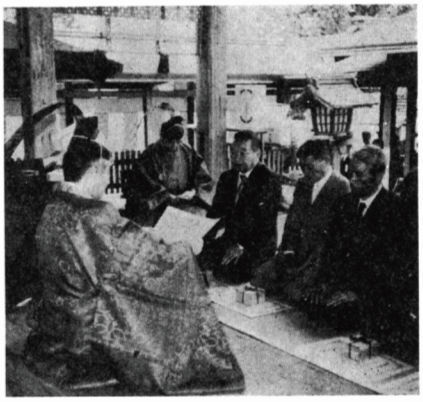
翌二日午前十一時から、大祭第二日祭、併せて交通安全講社祭が講員三十余名参列の下で行われた。祭典終了後、昭和五十九年の若布献上に際し、本年は近年にない厳冬の玄界灘で若布を採取された高令者に対して、当大社から感謝状と記念品を贈呈、葦津宮司から一人一人に手渡され、感謝の言葉が送られた。

総社大祭終了後、同十一時五十分から、宗像護国神社神前に於いて、春季大祭も斎行された。

同祭典には、宗像市郡の遺族百数十名の参列を始め県会議員の伊豆・小山両氏・市町村長や同議会議長・福祉協議会の役員・当大社氏子会長・総代等多数参列し、護国の英霊をお慰め申し上げるとともに遺族・市郡民の御加護と弥栄が祈念された。

また、同午後二時から、南坊流小方社中による〝献茶祭〟が執り行われた。

三日間に亘る春の大祭はかくも盛大に厳粛裡に斎行されたが、一方では、四月一日（日）神賑行事（かみにぎわいの行事）も盛大に行われ、神人和楽の伝統のもと、御社頭も大いに賑った。



尚、神賑行事として、同日午前九時から本殿横境内に於いて、小学生から一般までの男女剣士四百余名が参加し、日頃修練した技を競い合った。

また、同日午前十時半から、当大社清明殿に於いては、第九回宗像大社春季奉納吟詠大会（吟道鶴洲会主催）も開催された。

――◇――◇――

昭和五十九年献上若布採取者感謝状表彰者名

永島　国男（神湊漁協）
高橋　義治（神湊　〃）
安部　務（津屋崎〃）
菊地佐喜蔵（津屋崎〃）
山崎　勝夫（地ノ島〃）

人間教育と宗教情操教育　㈠

昭和五十二年いらい学習指導要領に示され、その実践には学校側や教師の自主性が尊重されている「ゆとりのある教育」については、各学校とも生徒会活動や勤労体験等々いろいろの形でゆとりの時間の使い方を工夫している。茨城県の一公立中学校ではその教育実践の一つと昨年四月から毎週一日、始業時刻を一時間遅らせてその時間は在学習による「宗教の時間」とし、生徒たちにそれぞれの家庭の神棚、仏壇の清掃、供花や墓参り、さらには自分の先祖について両親とともに語りあうなどさせ、祖先を敬う心を養うよう教育を進めていた。ところが、これを知った県教委の水戸教育事務所が中止を求め、わずか三カ月で廃止された。というニュースが最近になって明らかにされ、種々の議論をよんでいる。

○

県教委側が中止を要求した理由は①週時程に「宗教」を明記して組み入れているのは、教育基本法違反の「宗教教育」をおこなうものと外部から誤解される恐れがある②登校しているべき時間帯を、生徒を野放し状態にするような在宅学習にしたのは不適当―というものだったが、それをマスコミは、例えば「公立中で宗教指導」というような大見出しを掲げて、読者にさもその中学校が違憲の宗教教育でもしたかの如き印象を与えているのがまず注意される。

実はそれらマスコミの報道でも、記事を丁寧に読めば見出しとはちがうことがわかる。「宗教の時間」を実行した岩瀬町東中学校側は、同中学校の周辺地域には朝食前に仏壇に線香を上げる古くからの習慣があるにもかかわらず、生徒たちには先祖に対する畏敬の念が欠けているのが実情である、それを補う意図から宗教的情操の涵養を主眼として発案したもので、「特定の宗教を指導するつもりは毛頭なかった」といい、県教育庁も「指導の内容からは狭い意味での宗教教育はおこなわれていないと判断される。宗教的情操を養わせようというのは教基法に照しても問題はない」と言っている。

といって、学校当局にまったく手落ちがなかったともいいにくい。それは先祖崇敬の実施方法はその家庭の実情に応じて生徒一人ひとりの判断にまかせた点。実際、先祖を祀る作法は家庭によってちがうのだから、そういう教育指導にせざるをえなかったのかも知れぬが、そのため「宗教の時間」設定の目的が果して生徒に正しく理解され、実行されたのかどうかを学校としてはチェックできず、学校側の意図にそむいて自分勝手なことをしたり、朝寝坊したりした事例も少ならずあったらしい。結局、学校が「宗教の時間」を廃止したのは、その時間の具体的な指導に関する配慮が足りなかったのは不適当である。

それにしても、校区内の実情をふまえて自主的に工夫されたこの中学校当局の教育意図を、県教委はもう少し親切に見守り、指導してやるべきではないか、というのが率直な感想である。指導内容は違憲でも違法でもないと認めているのだから、週時程に「宗教」を明記したのが誤解を招くのなら、別の適切な表現に変えさせればよい。生徒を野放し状態にするのが不適当なら、その時間に教師がどうすればよいかを一緒に研究工夫してやればよい。その改善方法はいくらでもあったと思うのに、県教委側はただ「外部に誤解を与えるおそれあり」とか「生徒の野放しはよくない」というだけで、せっかくの試みを無にしてしまっているのは不満である。

（神社新報より）

余滴

この冬は長かった。当地でも真冬日が幾日も続き、雪の舞う日が多かった。梅の開花は一月以上も遅れ「梅一輪一輪ほどのあたたかさ」もさっぱり実感なし。寒波による水道や路面凍結に生活のリズムを狂わされ、鉛色の空を仰いでは一日も早い春の訪れが待たれた。しかし考えてみると、この異常気象も北国ではさして珍らしいことではない。北海道では梅、桃、桜は五月に一斉に開花するという。冬季は夜間水道の水を抜いたり、車にチェーンやスパイクタイヤを使用するのは常識で、昨今はスパイクタイヤの粉塵公害が大きな社会問題となっている。豪雪地帯の白魔の脅威も凄じい。特に屋根の雪おろしは大変で、これを怠ると家の崩壊や人命にもかかわる。近年は出嫁ぎのため除雪の重労働は老人や女性の手にまかされているという。そのほか高い燃料費や野菜類の不足等、南北の僅かな緯度の差が人々に過酷な負担を余儀なくさせている。しかし北国の人達はこの厳しい自然環境を逆に利用し生活の智恵の中から縮緬や漆器を始め秀れた特産品を生み出している。テレビの「おしん」も終ったが、あの忍耐強さや逞しいバイタリティは、その生立ちの舞台が草深い雪国であったことが一層の共感を呼んだのであろう。杞憂という言葉がある。中国の杞の国の人が天が崩れて落ることはないかと心配した故事から、取越苦労の意であるが、当地の梅の開花は遅れても桜は出番をたがえることなく爛漫と咲き誇った。自然の営みは不変である。「年々歳々人同じからず」。当社にも新人八名が入社した。どのような人生の花を咲かせるか楽しみである。

第二七三回　宗像大社歌会詠草

毎月一日〆切　詠草到着順

原　町　塩川ハルコ
霜解けの温める土を押し開き萌え出でており鹿の子百合の芽の
通り堂　木梨よしの
「春の雪」「論理の都市」と読みつぎて華々しく逝く著者を憶へり
原　町　八波　五月
義兄（あに）の葬りすませて凍みる夜を帰り節分の豆声細く撒く
吉　留　白木うめの
雪の上に雪の降り積む静かさを乱してわれの靴に踏みゆく
曲　天野トモエ
椎の実を拾ひ集めて送りしに手編みの肩掛け送り来りぬ
王　丸　村山　菊代
うぐいすの未（いま）だ幼くチャチャと鳴き枝うつりいる春近き日を
戸　畑　田中ハツセ
浴岩の中に立ちたる裸木の幹より芽ぶく緑の若葉
田　久　立花　勇雄
金婚と吾の喜寿とを祝ぎくれて子らのすすむる美酒に酔ひたり
名古屋　野崎　傳三
火まつりの庭火の消えし浄闇に潮騒とよむ鳥羽の大宮
徳　重　石松や寿子
暖かき日射をあびて厳寒に痛みゐし麦の色を増しきぬ
大　島　屋形とみえ
女児出産を待ちわびてゐし娘の家に一つの生命を吾が抱き帰る
大　島　板矢あきえ
早春の香りをのせて沈丁花友の狭庭に紅くほころぶ
大　島　中村さつき
残雪の屋根に連なる集落は車窓に見えてあたり昏れゆく
大　島　藤田よし子
木蓮の白くふくらむ庭に来し目白の細き足たしかなり
大　島　目原　節子
早春の光りあまねし浜の道干されしヒジキの香の中を行く
大　島　佐藤　八郎
水たまりに片足で立ち影うつす鷺は二月の風に吹かるる
大　島　本田よいえ
海と空戦ひの場に子を遣りて武運祈りし日も遠ぞきぬ
大　島　大島　勝代
井戸蓋のくぼみの水に降りたちて水浴む小鳥の飛沫きらめく
鐘　崎　岩瀬　辰夫
春や春薄着と成りて身も軽くゲートボールに力湧きたつ
鐘　崎　山脇ふみ恵
海草が乾してあるらし浜風に窓を開ければ香りただよふ
福　間　二宮　末子
木木の間に降積む雪の重くして枯枝雪と共に落くる
吉　留　高山　信子
笑い声テープに取りて送り来し初孫はゆしと友はきかする
日の里　原田　里美
子の土産北海ケガニに目を見張る甲羅は絵のさま足は鋭き
武　丸　原田まつ代
夜もすがら照らせる月の白々と遥か母校の空に浮かべり
福　間　宮木　勝弘
語り合ふ人もなく老い独り身の深夜に目覚め思い眠れず
津屋崎　谷口　礼子
夜のやみほのかにうかぶ白き花沈丁花なり匂ひただよう
福　間　中村　勇
時ながく味噌大豆煮るコンロの火細々とあり雪降りやまず
田　熊　鷲津かつ代
鶴の群去りて薩摩に春来ぬと聞きつつ寒の戻り幾たび

春季大祭 賑う奉納行事

奉納剣道大会

四月一日（日）恒例の春季大祭奉納剣道大会が、午前九時より開催された。

これは、春季大祭の神賑行事として、例年本殿横の境内で野試合として開催されている。

当日は、小学生の豆剣士を中心として、一般成人まで六階級、八十八チーム、約四百人の選手が参加し、団体戦で行なわれた。

前日よりの曇り空で、天候が心配されたが、時がたつにつれ、快晴となり、多くの観戦者が声援を送る中、砂をけたての熱戦が繰り広げられた。

同大会は宗像地区以外からの出場も多くなり、年々盛大になっている。

午後二時すぎ、朝からの白熱した試合も終了し、表彰式が行なわれ、入賞者には、賞状、賞品が渡された。

成績は次の通り、

小学校一・二年の部
優　勝　東郷少年剣道教室
準優勝　神興剣道会
第三位　玄辰館

小学校三・四年の部
優　勝　岬少年剣道教室
準優勝　玄辰館
第三位　神興東剣友会

小学校五・六年の部
優　勝　玄海少年剣道A
準優勝　玄海少年剣道B
第三位　河東剣道教室

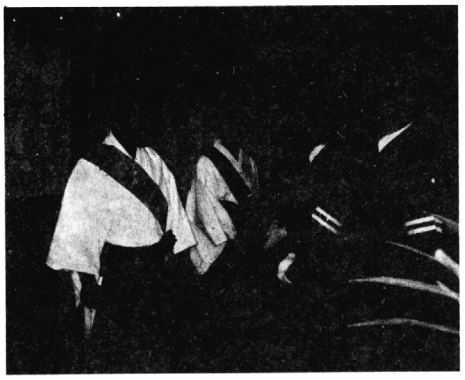
中学校の部
優　勝　福間東中A
準優勝　玄海中C
第三位　中央中A

高校・大学の部
優　勝　福岡工業大学A
準優勝　武蔵台高A
第三位　若松商高A

一般の部
優　勝　河東剣道教室
準優勝　水曜会
以上

春の交通安全キャンペーン

―一日宗像署長に宇都宮権宮司―



桜のツボミもようやく、色づき始めた四月六日、春の交通安全運動が始まった。宗像警察署より、交通安全キャンペーンの一環として、宗像市郡内を巡廻し交通安全運動を呼びかける自動車パレードに先だち、交通安全の神さまとして有名な、当大社に一日宗像警察署長をお願いしたい、との申込があり、当社の宇都宮権宮司が六日宗像警察署に出向した。

午前九時、同署で井上泰暢署長より宇都宮権宮司に「一日署長」「迷惑、粗暴運転追放」の黄色いタスキが手渡された。

巫女二名が同行し、宗像一市三町を自動車業者の約三十台の車を供車に、パレードが行なわれた。

宗像市役所前より権宮司の車を先頭に、市内、玄海町、津屋崎町、福間町内を午前中パレードし道行く人々、運転者に交通安全を呼びかけた。

午后は、当社と宮地嶽神社合同による「セーフティ・ステーション」を宗像市赤間の旧国道3号線で開設した。

宗像・宮地嶽両神社より、神官、巫女さん、又青年会議所会員の方々の協力を得て、約二十名が、宗像警察署交通課の署員と一緒に約二時間、ドライバーの人達に交通安全のお守り、ステッカー、又赤青黄の風船を配り、安全運転を呼びかけた。一時停車を命じられた運転者も、春の交通安全運動期間中であることを知っている様子で、にこにこと呼びかけに応じ、車中の子供達も風船の土産に大喜びであった。

新聞紙上に交通事故ニュースがない日は無い今日である。一時の気のゆるみが、本人を、相手を、家庭をも不幸のどん底に落す交通事故です。期間中はもちろん、毎日毎時毎秒、車を運転する人も、道を歩く人も充分に注意して、この便利な文明の利器を有意義に利用し、幸せな毎日を送りたいものです。

奉納吟詠大会

―北九州鶴洲会―

当大社の春季大祭神賑行事として有名になった、北九州鶴洲会会員による吟詠奉納大会が、今年も桜下のもと約百名の出場者で賑わった。四月三日午前十一時、拝殿に参列した北九州市に本部を置く鶴洲吟詠会（会長・河野鶴洲）会員約百名の代表者による『宗像三神』が朗々と献吟され、玉串拝礼の後大会が清明殿に於いて、開催された。

老若男女会員の吟ずる美声は、境内にこだまし、しばし、賑わう参拝者の足をとどめた。とくに後半の、師範級の人々、来賓（清香吟社）の模範吟詠が行なわれる頃は、盛んな拍手と、熱っぽい人々の声援が会場に満ちた。

模範吟詠の後、例年の通り本大会運営功労者に対し感謝状並に記念品の贈呈が行なわれた。

感謝状贈呈者次の通り

森田　芳洲
角　興洲
柴田　孝洲
平山　鶴鳳
福田　鶴陽
俵　鶴風
岡　武洲
村上　鶴堂
村橋　鶴吾
大畑　義雄　以上十名

今後益々の鶴洲会の御発展を祈り、末永く献吟されん事を祈ります。

盛大に講社大祭

―宗像大社交通安全講―

去る四月二日、当大社春季大祭二日祭に併せて、交通安全講々社大祭が厳粛に斎行された。

当日、午前十時半、各地から講員の方々が三々五々参集され、本殿授与所で受付けを済ませ、巫女から胸に赤い記章をつけてもらい大祭に参列、代表が玉串を供えて講員一同敬譲な祈りを捧げられた。

その後、儀式殿に於て講社祈願祭が執り行われ、一年間の災厄攘除が祈願された。午後から斎館に於て、直会が催され御神酒を傾けながら和やかな雰囲気の内に終了した。

当社交通安全講は、宗像大神の御神徳を敬仰し、大神の広大無遍の御守護を戴きたいという崇敬各位の熱願によって、昨年四月に設立された。

当安全講の概要としては、入講期間を申込みを受付けた月日より翌年の同月の前日までとして一ケ年を単位に、継続、退講を任意にしている。

講員の種別を個人と、法人に分け、個人は家族を含めて講費三千円、法人は一万円となっている。

また、講員の住所、芳名を特別名簿に浄書し、毎朝御本殿に於て講員並びに御家族の安全祈願祭を斎行している。

昨年四月以降、当社で祈願祭をされた方々を始め、一般の方々にも入講の御案内を差上げており、講員は既に五百名に達している。

御入講希望の方は電話（〇九四〇―六二―一三一一）かハガキで当大社社務所（福岡県宗像郡玄海町田島宗像大社社務所内）に申込み下さい。案内書をお送りいたします。

神郡社寺めぐり (1)

御嶽神社（筑前大島鎮座）

今回より新しく、宗像大社の摂末社を中心に郡内の神社、仏閣めぐりを行って見たい。

年々歳々変貌する世情にあって、古来より脈々と信仰の中に受け継がれて来た神社、お寺をたずね、その土地土地の風習なども一緒に記録してみたい。

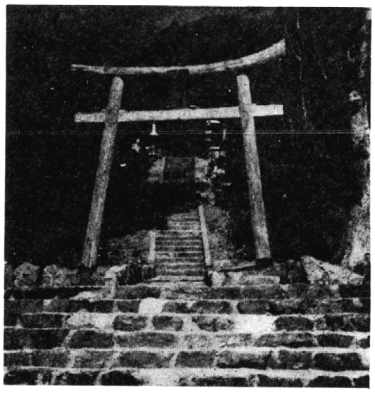
御嶽神社＝玄界灘に浮ぶ、福岡県最大の離島筑前大島、人口約千二百のこの島は漁業と農業が中心産業である。アイデア村長の名で有名な、中村国美弥村長を中心にして、村営牧場、村営シイタケ栽培山等の経営で有名である。

又、昨年度は若人の島離れ対策として新婚住宅の建設を進め、島の若い力保存に大きな成果を上げ注目された。島民の約七十パーセントを漁業者でしめるこの大島は、宗像大社中津宮鎮座の地でもある。

神湊より「フェリー大島」にて約三十分の海上風景を楽しんでいると船は大島港に入港する。

正面に大鳥居が目に入る宗像大社中津宮である。長い石段が木の間ごしに見える。この中津宮の裏山が御嶽山である。標高二百七十メートル、この霊山の頂に鎮座されているのが御嶽神社である。

この御嶽神社の存在については、天文二十二年（一五五三）の大島第二宮年中御供次第及び弘治二年（一五五六）同年中御神事次第に、「御岳」の名が見え、また天正十三年（一五八五）二月吉日の宗像御廟著座次第には、「大嶋御嶽第一宮護灯＝安倍民部丞秀浄」とあって、大島御嶽には護灯役があった位であるから、おそくともこの頃には、相当の社殿が存したことがうかがわれる。



又社殿について「続風土記附録宗像郡上」の御嶽神社の条に「昔は社なかりしに、今は神殿方一間、拝殿一間半四方、祭礼六月二一日、奉祀河野信濃」とある。さらに明治十七年の中津宮神明書には、祭神は湍津姫命荒魂・天照皇大神の二柱と記されている。

現在、中津宮の奥宮様と氏子中より親しまれ、深い信仰がささげられている。

この御嶽神社の改築工事が今春三月完成した。この信仰にささえられた経過を次号で紹介する。

――以下次号――

＝県下一のデラックス＝
町営ゲートボール場完成

宗像郡玄海町に、県下最大の大ゲートボール専用コート（七面）が、四月十一日完成オープンした。

当日朝、和田町長のテープカットのあと、町内約四十の老人クラブから選ばれた代表二十四チーム（約二百人）による記念大会が催された。

公立のゲートボール場としては、西日本有数の規模をほこり、町は玄海町旅館組合に運営を委託して、当分無料で開放、「町観光の目玉に」とサービスにつとめている。

ゲートボール場一面の広さは縦十五〃横二十〃で、老人用サイズが七面もある。トイレや屋根付き休憩所もついた立派なもので、三ケ月がかりで、町費約一千万円をかけ完成した。

場所は町役場のある玄海町江口、役場下にある約三千平方〃の町立広場である。町の話では、公・私有を問わず大規模なゲートボール場があるのは、山口県萩市（十九面）熊本県菊地市（九面）ぐらいのものですという。

玄海町の名物、生魚料理と合せピーアールを進め、観光客誘致の目玉にと張りきっている。

年間十数万の観光客で賑わう同町であるが、最近の団体客の中には、ゲートボールを楽しみたいお年寄りが増えたため、旅館組合は町立ゲートボール場の設置を町に陳情していた。

運営委託をまかされている神湊旅館組合（十六店）では「県内なら旅館のバスでどこへでもお迎えに上がります」（泉定光組合長）という力の入れようである。このゲートボール場に元気なお年寄のはずむ声が玄界灘の青、海岸の松の緑、の中にこだまする日も近い。お年寄のみなさんお元気に力いっぱい、でっかいコートで汗を流し、腹いっぱいうまい魚を食べて人生を楽しんで下さい。

宗像署長訪問記

執務中の井上宗像警察署長

本年三月十二日付で宗像警察署長を命ぜられ、県警察本部警備部公安第二課長から着任いたしました井上でございます。

幸い、現在のところ、宗像署管内には大きな事件もなく、比較的平穏に推移し、治安が保たれておりますが、これも住民の皆様の警察に対する御理解と御協力によるものでありまして、感謝いたすとともに、管内治安の責任者として、任務の重大性を痛感いたしているところであります。どうかよろしくお願い申し上げます。

月日のたつのは早いもので、着任後すでに一ケ月を経過いたしました。この間、気持としては、できるだけ早く管内の多くの皆様にお会いして、お話しを聞きながら、早く土地に溶けこみたいと願っておりますが、公務に追われ、なかなか思いどうりにならない現状でございます。おくればせながら、本紙を借りてごあいさつ申し上げるとともに、宗像に来ての感想や抱負を述べさせていただく次第であります。

ところで、私は主に本部勤務が長かった関係で、宗像には何回か出張で参りましたし、以前から宗像に親しみを持っておりましたので、風土や気質については、多少わかるつもりで着任して参りました。たしかに宗像に住んでみると、海と山との自然美に恵まれ、民情も豊かであります。しかし、一口に宗像といっても、田園地域や漁村地域もあり、又都市化著しい新興団地もあれば、古い伝統に支えられた地域もあり、それぞれの地理的な特色や歴史的な特殊性から異なった民情や気質があるということで、これから古い郷土の歴史や各地の特色等について、もっと勉強しなければならないと思います。そうすることによって、宗像への愛着が深まり、それが仕事のすべてに通ずることだと考えています。

そこで、私の警察業務推進についての考えの一端を申し述べ、皆様の御理解をいただきたいと思います。

それは、住民の皆様の意見や要望に応え、期待と信頼を得る〃強くて親切な警察〃の確立に努めていきたいということであります。

警察の使命なり、任務は、今更ここで申し上げるまでもなく、住民の皆様が安心して街を歩ける、夜、枕を高くして眠れる治安の実現であります。したがって警察はもっと、地域の皆様の意見、要望等をあらゆる場を通じてスムーズに吸い上げ、これらに対応した警察活動を積極的に展開することにより、皆様方の期待と信頼を得るように努めてまいりたいと思います。

又、執行務に当たっては、悪に対しては容赦なく、決然と立ち向っていかなければなりませんが、そうでない善良な住民の皆様には、相手の立場に立った思いやりが必要であると思います。着任後、署員にも、「人の痛みがわかる警察官」であってほしいと強調しているところであります。

私は、このたび縁あって宗像警察署に勤務することになりましたが、当警察署が宗像地区の皆様方に、一層頼りにされ、又親しまれる警察となるよう努力する覚悟であります。よろしく御協力、御支援をお願い申し上げます。

井上　泰暢（ひろまさ）

＝◇＝◇＝

尚、署長室を訪問した時、部屋の壁にかかげられた歴代署長一覧表を見せていただいた。表によると、初代警部、大倉周之助、明治十九年九月一日就任、同二十四年三月十二日、文字通り署長は現在の井上泰暢署長で六十代を数えています。

警察署と呼ばれていたそうです）署長は現在の井上泰暢署長で六十代を数えています。

『玄海彫刻の岬恋の浦』
＝宗像郡新名所＝

宗像郡津屋崎町の玄海国定公園内に「玄海彫刻の岬恋の浦」の第一期工事が終り、四月二十一日にオープンする。

開発着手から十五年の月日を要した大工事で、ユニークな総合自然文化公園である。県内の観光モデルコース「玄海グリーンライン」の新名所にという地元の建設促進の要望がようやく実現したのである。

玄界灘に面した渡半島の敷地百十ヘクタールに城山観光（本社・鹿児島市）が資本六十億円を投入しての完工である。施設は文化勲章受章者、北村西望、沢田政広両先生の作品を始め、国内一流の彫刻家の作品五十四点を集めた彫刻ゾーンを中核として、ゴルフ場（九ホール）のある健康文化ゾーン、野外コンサートの出来る芝生広場の芸術文化ゾーン、和洋レストラン、宴会場などのある食文化ゾーン、ホテルの建設が計画されている宿泊・研修ゾーンの五区域から成る大公園である。

園内は、一面芝生に覆われ、自然林の中を遊歩道が巡り、自然を満喫しながら各施設を廻ることが出来る。健康文化ゾーンと芸術文化ゾーンを結ぶ空間より望む玄界灘の眺はすばらしい、真っ青な玄界灘、遠く海上正面に浮ぶ神島「沖ノ島」、右側に筑前大島、神湊半島、又左側に相ノ島、志賀ノ島、が望める。

背に四ツ塚連山から立花山、遠く霊峰英彦の山影を見る一大パノラマは、まさに天下一と誇り得る景観である。

人口の増加にともない、月日に変る宗像郡であるがこの地より望む、海・空・山影は、神代の遠きより変る事のない風影であろう。

新人紹介

本年も当大社に新しい、人々が入社しました。本月号は神職の人達を紹介します。よろしくお願いします。

門司　成人（もんじ、なりひと）

昭和二十五年、十月十日生れの三十三才。福岡県遠賀郡の生れ、社家の長男として産声をあげ西福岡高校より国学院大学神道科に学ぶ、東京のネオンにもなれた昭和四十九年卒業と同時に東京に別れを告げ、山口県、赤間神宮に奉職する。早鞆の瀬戸に遠賀川川筋男の心を清め三ケ年の月日が流れる。

昭和五十二年同神宮を退職後、先祖代々守り継がれた、遠賀郡「浅木神社」に奉職した。しかし神道への探求の志深く、今年三月より当大社に入社した。

家庭には愛妻、千代子夫人と二人の子供が待っている。

＝趣味＝

スポーツ全般、特に陸上競技。

杉山　安彦（すぎやま、やすひこ）

石川県鳳至郡穴水町に昭和三十年十二月の雪深き時、生を享けた、当年二十八才の新鋭です。

地元の高校を卒業後上京し国学院大学を経て大学院に学び、神宮祭祀を専攻し、修士論文は「御饌殿祭祀の研究」と云う。

当大社に奉仕し、祭典を通して「祭りの意義」「祭りについて」を学び度いと云う実力派です。

身長一六六センチの身体からほほえみが消ぬ好人物、祭儀部儀式課で先輩にシゴカレル毎日ですが、へコタレ知らぬファイトマンです。

＝趣味＝

野球・つり・読書

藤川　耕一（ふじかわ、こういち）

佐賀県、鹿島市の生れ、一八〇センチの長身は当社随一である。

頭強な身体に似合わぬ、気持のやさしい九州男児です。鹿島高校より、国学院大学神道科に進み、花の東京の水で四年間みがかれ、今年四月当大社に奉職した時々ポカも出るが、そこは若さでカバー、先輩の指導を得て、一日も早く、宗像の水になじむべく祭儀部儀式課で頑張っている。

当大社に奉職を希望したのは、「神の島」、沖ノ島で奉仕出来る事が一番の望みです。と言う、笑顔の中にもキラリと光るものがある好青年です。

＝趣味＝

音楽鑑賞・ドライブ

スポーツは卓球選手をはじめ球技なればなんでもござれ、の万能である。

＝◎＝◎＝

次号は新人巫女を紹介します。

自由ケ丘　後藤君代
たづね来し山中の池は水涸れて冬日のなかに鶺鴒あそぶ

八幡西　磯谷　緑雨
内孫の初雛まつり春今宵祝ひ白酒にほろ酔いしかな

田熊　力丸　一郎
飛騨の川瀬の岩しろく乾きいて渡るにやすく岸にのぼりぬ

津丸　古賀　文明
春雪にうもれて咲きしアネモネの雪ゆるみ来て頭もたげり

武丸　原田　リノ
由布院に亡夫と泊りしは一昔前湯煙は今も空に勢ふ

武丸　立石ろせ乃
些細なることにこだはり眠れざりし一夜は明けて寺の鐘きく

田久　小方　実
賜りし無量寿の額に歌会の賞状並べぬ独の部屋に

原町　中村　幸
花かともまがふばかりに輝ける南京櫨の白きつぶら実

宮田　片山　朔子
春を待つこころしきりの今の手も物の芽はたしか青きも赤きも

東郷　藤崎　辰子
年とりて世話になること多くなり今年は隣組の会計を引き受く

津屋崎　高田マサ子
雪だるま作りて幼（オサナ）の忘れたる手袋に尚雪は降りしく

上八　占部　元子
襲すばをくわえ飛び交う雀らのしぐさ嬉々たり里に春立つ

田野　山口　タキ
庭先を散歩しいればタンポポが梅の根元にほのかに匂う

神湊　石丸　国子
早起きの母晴れの日もカーテンをひき臥せりおり午后の三時を

津丸　藤田　肇
友幾人逝きたる寒気遠のきて三冬尽きたり麦の芽青し

田野　森　つるの
樹一面に熟れたるみかん摘み挾れば垂れたる枝のはねあがりたり

池田　占部ユキ子
春あさき磯にて挾りしみどり濃き若布を干せば陽に匂ふなり

田島　田中ツタエ
ほつほつと朽葉ゆのぞく路の苔浅きみどりの余寒にふるう

神湊　葉山　道子
とどき来し新版（しん）広辞苑に蠟紙のカバー掛けたり古稀の日と記し

田野　山口　和江
吹く風は冷めたけれども前山の谷ささ啼く日射あかるし

福間　松尾　和子
凍てつきし雪の畑より引き抜きし大根おろしの朝飯うまし

江口　小林万里子
海静か山しづかなり玄海を離る日近く梅咲き盛る

田久　加来　幸夫
春の雲浮く窓近き病床に手術のための毛を剃られゆく

大井　吉田　和子
雪かづく耳納の山々遥かにし高速道を行く時速百粁

鐘崎　安永　久子
白銀に光り耀うアラスカの原野にしばし心うばわる

深田　中野　節子
幼き日うしかひ鳥と聞きたるは夜鷹なりけり獣の如く鳴く

古賀　吉武　邦夫
失明の近きを我に告ぐる医師開かれし瞳孔（め）に白衣眩しも

津屋崎　内田　久美
積りゐし雪も大方消え去りて夕べ家並に斜陽ぬくとし

津丸　松尾　豊
行きつ来つ車があふるるバイパスの霞の奥に立花山見ゆ

田熊　今村　重刀
半身は不随なる妻の居るのみに心安けく吾は老いゆく

宗像大社歌会 俳句作品集（三五）

若草を踏んで鼻歌軽やかに　田熊　安部　ゆき

灘の反り又反りさきの島霞み　津屋崎　西住喜三郎

幼稚園初遠足や行儀良く　鐘崎　岩瀬　辰夫

彼岸時化来そうな海のたたづまい　名古屋　野崎　傳三

白酒にほろ酔ふ妻の佐度おけさ　八幡西　磯谷　緑雨

釣舟の軋む櫓音や霞む海　香椎　板谷クニコ

春彼岸嫁の親切供えけり　福岡西　入江　柳江

合格通知享に温められし春の雲　津屋崎　井浦　良介

雛壇のオルゴール鳴り日脚伸ぶ　田熊　力丸　一郎

四ツ塚は白く装いて春炬燵　福岡中央　力丸ゆずる

現世の余情のごとく陽炎へる　東京　白本　静江

早梅のくれなゐ雪の中に彩　藤沢　井上　玄洋

玄界海岸地名探訪（3）

寄木浜（福岡市西区玄界島）

いしいただし

今号は玄界島の寄木浜を訪ねてみましょう。

博多湾の入口近くに、玄界島という、丁度、椀を伏せたような小さな島があるのをご存知でしょか。

面積一・一七㎢、周囲四キロ。最高は二一八メートル。人口は約九二〇名、うち二四〇名ほどが漁業従事者です。一九六一年（昭和三六）に糸島郡北崎村から福岡市へ編入されました。

博多築港から「ゆりゆかー」に乗って約一時間で島へ着きます。船は一日五便が出ています。

筑豊沿海誌の写真（大正六年刊）を見ますと、海に面して、背後の山に家が建ち並んでいますが、今は前面の海が埋立てられて随分と広くなっています。南側に人家が集中し、東側山手の方に小・中学校があります。北側は砂浜岩礁等が交互にあり、玄界の暴浪に険しい景観を呈しています。

島の周囲には、黒瀬、クタベ瀬・柱島・大小机島の瀬と、島（無人島）からなっています。

玄界島には百合（ゆり）若大臣の伝説があります。少し長くなりますが紹介してみましょう。

九世記のころ、豊後の国守・百合若が西海警備の任を果しての帰路、暴風雨に遭い玄界島に避難しました。

その時、部下の別府兄弟達の裏切りにあって、百合若は島に置去りにされてしまいました。

一方、国へ帰った別府兄弟は、百合若戦死と報告し豊後の国守に就きました。

また百合若が国に残した新妻の春日姫にまで手をのばそうとします。

二年がまたたく間に過ぎたある日、百合若が国で飼っていた緑丸（みどりまる）という鷹が飛んできました。

百合若は自分の血で手紙を妻に書き、緑丸の足に結びつけ放ちました。

一月（ひとつき）後、寄木の浜に緑丸の死骸が流れつきました。足には妻からの墨と硯が結ばれていました。緑丸は遠路の疲れで力つきたものでしょう。

豊後の船が島に流れつき、それに乗って百合若は豊後に戻りました。やがて百合若は変装をして、憎っくき裏切り者の別府兄弟達を成敗し、妻とも再会するのです。

貝原益軒の筑前国続風土記の玄界島のところには「此島に百合若大臣住所として山の上にあり、人家の乾に当れり。むかしは窟有て大臣の臥せし所となん云伝へしか、近世大雨にて崩れぬ。其下に形とて大臣烏帽子をぬきすてられしと云所あり。又良北の方に立花崎と云所あり、是録丸が帰る所と云い、其下にをり口と云所あり、大臣常に比所より下り玉ひし所と云。・・・又人家より東に当りて、より木として緑丸か流れよりし所と云伝へたる所あり」と伝説に因む場所のあることを記しています。

今日では、その伝説の場所を知っている人は、ほとんどいません。

どうしてこの島に百合若伝説なるものが生れたのでしょうか。

玄界灘の孤島ともいうべき位置にあるわけでなく、対岸の糸島半島西浦崎は約二・五キロ、志賀島は五・五キロと手のとどくような近いところです。それに古来から文化の中心的な那津（博多）等船の往来も激しく、大陸からも、沿岸を航行する船も、島の横を通るような場所です。

この島の歴史はどうでしょうか。

考古学的な遺物は未だ確認されていませんが、もしかすると、続風土記に百合若の臥せし所といい伝える窟は古墳時代の横穴式石室の可能性が考えられます。

この島は一六世紀中頃に約四〇〇年間ほど、海賊の為に占拠され、島民が対岸の宮浦へ避難し無人化したことがあります。

江戸時代には藩所が置かれ、また政治犯の流刑地となっています。

眼の前の緑を絶やさない

福岡市と北九州市との中間地点に位置している宗像地方も、近年都市化の波におそわれて、ベットタウンとしての一歩をたどってきている。

すでに前号で、皆様方にお知らせしましたように、このたび沖ノ島は、環境庁のほうから「鳥獣保護特別区」としての指定を受けた。それより前に、福岡県からも、県条例第三十五号の、「福岡県環境保全に関する条例」の適要を受け、「自然環境保全区」に指定されている。

日本列島を空の上から見ていくと、この二・三年で大幅に景観が変化してきている。これは国土開発により、山林地帯が著じるしく後退し、各所にビルの谷間の波がおしよせ、緑の場所がなくなってきていることをうかがい知る。天然記念物に指定されている鳥獣類も、絶滅したものや、絶滅の一歩手前に瀕しているものが、後をたたない事実がこれをものがたっている。

今、これを防禦できるのは、全国の神社・仏閣であり、それに属する広域境内地であることは、一般によく知られている。自然の状態のまま、又、昔の姿のまま存在していけば、ここに生息権を持つ動・植物等の生物類が、今後将来もなお生活を続けていくことが出来よう。

土地開発は一面では、古代の生活遺跡の崩壊、即文化財破壊へとつながっていく、とも言われているが、一方地域生活者の生活権に関する問題とも、併行して考がえていかねばならない。現在の開発事業を大きな目でみていくと、地域社会の生活発展よりも、観光開発に重点を置き、それが優先しているようにもみうけられる。

これらの諸問題をかかえた開発は、一つの転換期を迎えていると思われる。

当面の文化財保護に関しては、その役割は分散してしまうが、ここで、林野庁と各都道府県とが主体となって、取りくんできている「保健保安林」の指定の件を例にとり、考えてみていこう。

保安林の役割は、

①水資源の涵養

②洪水や山崩れ等の災害を防ぎ、生活や生命・財産を守る。

③レクリエーションの場を提供し、保健休養に役立つ。

④汚れた空気を浄化し、騒音公害を防ぎ。

⑤精神的な安らぎを与え、豊かな生活環境を守り、快適な生活環境をつくり上げる。

⑥海浜地では、防風・防砂の災害から人家・田畑を守る。

以上のことに主要な点を置き、林野庁や都道府県では、こうした重要な働きを有する森林には、「森林法」に基づいて、保安林に指定し、その森林が持つ目的が、十分に達成されるように適切な管理を行っていくとしている。

このような保安林のなかでも、左記の条件に該当する森林について

一、森林レクリエーションの場を提供する。

一、豊かな生活環境を守る。

二項目の働きを特に、発揮させるために指定した保安林が、「保健保安林」である。

明治三十年に制定された最初の森林法で、「衛生保安林」として誕生し、昭和二十六年に現在の名称に変更された。それぞれの時代に即応して、保安林の指定を進め、今日では、全国で七四〇万ヘクタールの土地が、保安林に指定されているといわれているが、我々が、安心して住める豊かな国づくりを、これ以上に進めていくなかで、特に保健保安林に重点目標を置いていると聞く。

全国各地の代表的な保健保安林の中でも、一番最初に指定された所は、西郷隆盛終焉の地として知られる鹿児島県「城山保健保安林」が有名です。

福岡県では、四王寺山（県民の森）ー大野城市・太宰府市・粕屋郡宇美町ー臨接県をあげると、佐賀県佐賀市・金立山

文化財についての考え（18）

楽松　子

熊本県熊本市・立田山

〃　菊地市と阿蘇町にまたがる・菊地水源

大分県野津原町・四辻峠

山口県萩市・田床山

などがあげられる。

快適に利用できるように、自然遊歩道、案内板・指導標・防護柵・くずかご・便所を適切に設置し、休養を兼ねた森林レクリエーションの場として、人気も高まり、利用人口が増加しているとも聞く。

やはり、文化財の問題と同様に、都市化の進展に伴い、市街地とその周辺の緑が急速に失なわれ、生活環境の保全・休養の条件としてばかりでなく、永年月、培ちかわれてきた生活と文化に対する、森林の果たす役割が、再びみなおされてきていると考えることが出来る。

沖津宮現地大祭案内

宗像大社沖津宮現地大祭を左記の通り斎行致しますので参拝希望の方は御連絡下さい。

記

【参拝日程】

1 五月二十六日（土曜日）午後六時までに中津宮（筑前大島）に到着し届け出ること。受付後宵宮祭に参列すること。

2 五月二十七日（日曜日）午前六時大島出発。午前九時沖ノ島到着、直ちに海水にて禊。午前十時祭典。午後一時沖ノ島出発同四時大島到着、解散。

3 渡海船（大島〜神湊間）大島発午後四時二十分・同六時。

4 海上時化等のために渡島不可能の場合は大島の沖津宮遥拝所に於いて祭典を斎行します。

【要　項】

1 参拝者は沖津宮奉賛会費として一名七千円をお納め下さい

2 五月二十六日は大島にて斎泊。宿泊所、食事（弁当）は各自で御手配下さい。

3 乗船者数に制限がありますので、参拝希望の方々の内より当社で厳選の上決定致します。

4 年令七十才以上の方の渡島は関係筋の通達によりお断り致します。

尚、長時間の乗船に堪えられない方や健康状態が良好でない方は、御遠慮願います。

【要項等申込先】

宗像郡玄海町

宗像大社儀式課宛

返信用切手同封のこと